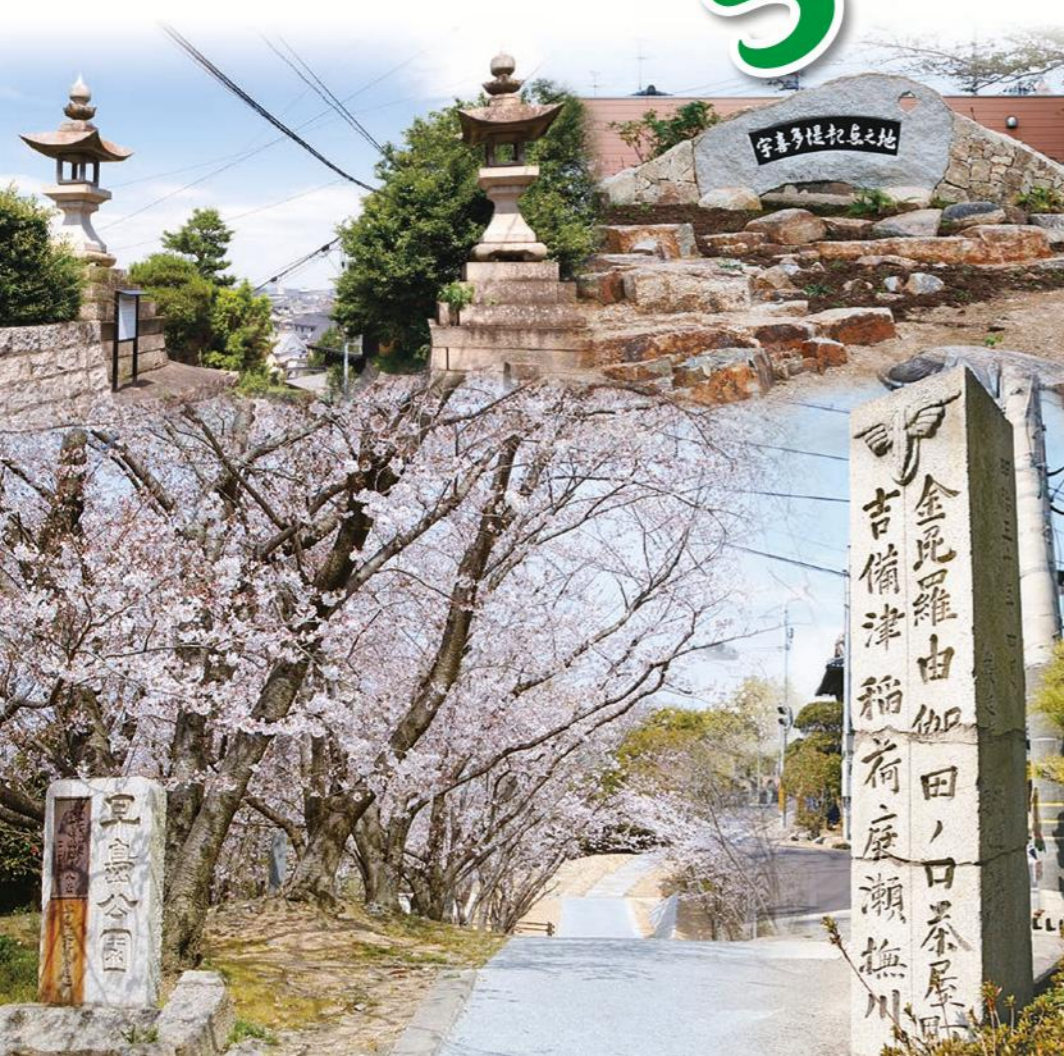


不老の道

早島の歴史をたどる健康ウォーキング

そのむかし、早島は「吉備の穴海」と呼ばれる海に浮かぶ、ひとつの島でした。戦国時代の終わり頃には、児島湾の干潟化も進んでいきました。当時、早島周辺を支配した戦国大名宇喜多秀家は、この児島湾の干潟に、早島を起点とした潮止めの堤（宇喜多堤）を築き、児島湾干拓の第一歩を印しました。それを手始めとして人々はさらに沖へ沖へと陸を広げていきました。そして、江戸時代、ここ早島は旗本戸川家が治めるところとなり、新たな大地には蘭草が植えられ、まちには四国への道が通りました。

聞こえてきませんか。干拓の槌音が、畳表を織る織機の音が。そして、由伽や金比羅詣でに向かう旅人の声が。不老のみちは、その昔人々が歩いた道をたどりながら、早島の歴史や文化にふれていただく散策道です。はるかな時をへだて、いにしえの人々の早島にかけた熱い想いを感じてみてください。



見どころ紹介

早島町歴史民俗資料館

早島の伝統産業、蘭草・蘭製品に関する歴史資料を展示した蘭草の資料館。江戸時代に使われた座機という織機や錦莞菫など美しい花ごしが多数展示されています。隣接の「花ごし手織り伝承館」では火曜・金曜の午後から手織りの実演も見学できます。※要予約



龍神社

龍神社は、祇園様の名で地元の人々に親しまれている神社です。かつてこの地は童王山と呼ばれた山で、お社もその頂にありましたが昭和40年代半ばに山を削り、今の姿になりました。ここ龍神社は早島の基礎をなした、児島湾干拓の先駆けである「宇喜多堤」の起点の地でもあります。広い境内には龍王宮、祇園社、鍋森宮が鎮座し、氏神御神幸のお旅所となっています。また、龍王、鍋森宮は水的神様で早魃のときには雨乞いの神事も行なわれました。



金比羅燈籠・道標

かつて早島には、讃岐の金刀比羅宮（現香川県琴平町）に続く道「金比羅往来」が通っていました。江戸時代中期から多くの旅人でにぎわい、早島には旅人を導く灯籠や道標が今も多く残っています。



早島小学校校門

レンガ造りの門柱は、主門とその両脇に付属する脇門の2対4基からなります。校門の詳細な設置年代は不明ですが、写真で確認できる最も古い記録は昭和4年（1929）であり、それ以前の大正9年（1920）の写真では確認できないため、少なくともその間に設置されたと考えられます。設置から今まで早島の子どもの成長を見守ってきた、当時の早島小学校の歴史を伝える上で貴重な建造物です。



交通のご案内



●お問い合わせ
早島町教育委員会 生涯学習課
〒701-0303 岡山県都窪郡早島町前潟 370-1 TEL.086-482-1511



見どころ紹介

早島戸川家陣屋跡

江戸時代、早島は旗本戸川家3400石の領地として栄えました。その陣屋は元禄6年（1693）2代重明のとき着手し、宝永6年（1709）3代安貞のとき完成しました。

陣屋の書物蔵を改装した戸川家記念館には、旗本戸川家ゆかりの資料が展示され、旗本の歴史と文化を知ることができます。（日曜・祝日のみ開館）



竹井将監五輪塔

天正10年（1582）備中高松城水攻めの前哨戦として戦われた冠山の戦いで、加藤清正と一騎討ちのすえ敗れた竹井将監のものと伝えられる五輪塔。竹井将監は、毛利方の武将で早島の城山の砦を守っていたといわれています。



備前備中国境標石

前潟新田と沖新田の南東に広がる干潟の開発をめぐり、児島湾の境が問題となりました。そして備前・備中との間で約100年にわたり裁判が行われました。その結果、文化13年（1816）幕府は今ある備中方の新田の堤を国境とし、それより南の干潟と海は備前領とする裁定を下しました。この国境標石は、その後文政4年（1821）に干拓工事の始まりとともに建てられたものです。



安原備中供養塔

石州石見銀山（鳥根県大田市）開発の功労者、安原備中（伝兵衛）は本町塩津の出身と伝えられています。備中はこの銀山開発の功により徳川家康と京都伏見城で対面し、家康から胴服と扇子を賜りました。その胴服は「辻ヶ花染丁字文胴服」と呼ばれ、国の重要文化財に指定されています。



前潟開墾記念碑

町の南部に広がる田園は前潟新田と呼ばれ、今から320年ほど前に干拓されました。工事は困難をきわめ、最後の汐止め堤が完成したのは、着工から12年後の延宝7年（1679）のことでした。この記念碑は、前潟開墾250年を記念して大正7年に建てられたものです。



鶴崎神社東参道常夜灯

早島特産の畳表は、江戸時代から「早島表」の名で各地に出荷され、その名は全国に知られていました。この常夜灯は、安政3年（1856）江戸と早島の畳表問屋が畳表を積ん備前備中国境標石だ船の航海の無事を祈って、児島湾の見渡せるこの地に奉納したものです。



弁才天港跡

弁才天は、舟本と並ぶ河川交通要衝の地でした。厳島神社には天保7年（1836）四国は讃岐の船頭が寄進したと伝えられる「灰船中」の燈籠が残されています。そして境内の南にある巨石は、早島がまだ島だった頃の波打ち際の様子を今に伝えてくれます。



不老の みち



- 東まわりコース** 【約4 km】
- 中央公民館
 - 歴史民俗資料館
 - 町民総合会館ゆるびの舎
 - 前潟開墾記念碑
 - 花町角
 - 戸川家記念館
 - 戸川家陣屋跡
 - 早島小学校校門
 - 清澄家住宅
 - 金比羅燈籠
 - 龍神社 (宇喜多堤起点)
 - 安原備中供養塔
 - 安養院
 - 早島公園 (竹井将監五輪塔)
 - つづじ公園 (国鉾公園)
 - 戸川家記念館
 - 戸川家陣屋跡
 - 戸川家記念館
 - 中央公民館

- 観光コース** 【約4 km】
- JR 早島駅
 - 早島町観光センター
 - 龍神社 (宇喜多堤起点)
 - 安原備中供養塔
 - 安養院
 - 金比羅燈籠
 - 清澄家住宅
 - 禁酒門
 - 市場園
 - 早島小学校校門
 - 千光寺
 - 早島公園 (竹井将監五輪塔)
 - つづじ公園 (国鉾公園)
 - 戸川家記念館
 - 戸川家陣屋跡
 - 花町角
 - いかしの舎
 - 歴史民俗資料館
 - JR 早島駅

- 西まわりコース** 【約4 km】
- 中央公民館
 - 歴史民俗資料館
 - 戸川家記念館
 - つづじ公園 (国鉾公園)
 - 粟島神社
 - 天満宮
 - いぶき荘
 - 鶴崎神社東参道常夜灯
 - 鶴崎神社
 - 弁才天殿島神社 (港跡・巨石群)
 - 汐入公園
 - 舟本荒神社
 - 中央公民館

- 南まわりコース** 【約5 km】
- 中央公民館
 - 歴史民俗資料館
 - 町民総合会館ゆるびの舎
 - 前潟開墾記念碑
 - 四百間堤跡
 - 不老のみち広場
 - 備前備中国境標石
 - 北向地藏
 - 弁才天殿島神社 (港跡・巨石群)
 - 汐入公園
 - 舟本荒神社
 - 中央公民館

- トイレ
- 休憩所
- 駐車場
- 喫茶

不老のみちを歩いて詠った俳句
 城山は風のまほろば木の実落つ
 光陰を踏み落葉踏む不老道
 野路を来て路地来てどこも秋桜
 千拓の昔を今に豊の秋
 しばらくは秋の風棲む陣屋跡



※距離表示は起点からの目安です。